

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1 【いきる】 2 【かかわる】	⑤ 【やり抜く強さ】 救済活動などに従事した人々の働きと苦労を通して、どんな状況においてもやり抜く強さについて考える。 ⑪ 【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。 ⑭ 【復旧・復興へのあゆみ】 震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きとしたまちづくりにかかわる。	総合的学習 の時間

**【題材】 未来をつくる絆 ～私たちの震災復興～**

**【対象】** 5学年 38名 6学年 61名

**【実践の概要・詳細】**

**(1) 緑のバトン運動**

本校では、5年生が1年間滝沢市で桜の苗木を育て、翌年6年生になると沿岸に植樹をする活動「緑のバトン運動」を行っている。そして、苗木を育て始めた5年生は、翌年植樹する市町村の見学学習をする。

本年度4月、6年生は、山田町船越小学校に桜15本の苗を校庭斜面18mの位置に植樹。後世の人に津波がここまで来たと伝えるメッセージを込めて丁寧に植えた。その後、船越小でもお世話くださり、桜は順調に大きくなっているようだ。5年生は、今年も桜の育苗を開始。来年度、釜石市唐丹地区に植樹することに決定。



サクラの苗の植え替え作業



船越小で桜を植樹する6年生

**(2) 植樹予定地の見学学習**

**① 釜石市の現状を知る。**

土地を高くするための工事車両が列をなして走る様子、建物や人影がほとんどなく、重機ばかりが動く様子を見ることができた。

**② 「宝来館」女将 岩崎昭子さんの話**

当日の防災センターでの悲しい出来事や地区が孤立した際の大人や子どもたちの行動について生の声を聞く。自分たちが生かされている意味、今の子ども達が何を学び、どう生きてほしいかなど、未来を担う子ども達へ熱いメッセージをいただいた。



熱く語る「宝来館」の女将さん

**③ キッチンカー体験**

震災後、大活躍した地元の「キッチンカー」をよび、1人前500円のカレーライスをランチとしていただいた。



**④ 釜石駅前市場「サンフィッシュ釜石」見学・買い物 キッチンカー**

復興の一助になればと思い買い物をする。また、自分たちが海産物を地域のフリーマーケットで販売するために、商品の陳列や値札を観察したり商品についての知識やセールストークの仕方等について店の方にインタビューをしたりして学んだ。



買い物をしながらインタビュー

**(3) 滝沢駅前「がやがや市」で釜石の海産物販売 キッズマートHIGASHI**

釜石から仕入れた海産物を5年生が販売。看板や値札も工夫して作った。「これは味噌汁においしいですよ。」「お父さんのお酒のおつまみにいかがですか。」「ウニイカは校長先生のいちおしですよ！」と宣伝の仕方を釜石で教わっただけあり商売上手の5年生。予定時間内に16種類250品の品物を全て売ることができた。利益は、復興支援のために役立つ。



いきいきと活動するキッズマートメンバー

